

不登校児童生徒等に対する認知機能強化プログラム(コグトレ)の有効性



国際文化学部
日本文化学科
教授
太田 清治

研究シーズの紹介

文部科学省調査では、令和元年度の小中学校における不登校、すなわち不登校を理由に年間30日以上欠席した児童生徒数は181,272人であり、前年度から16,744人、10.2%増加している。さらに、令和2年度は、196,127人となっており、この傾向に歯止めがかからない状況となっています。

本研究では、研究校において、見る力や聞く力、記憶力、想像力などの認知要素に着目した認知機能強化プログラム

(コグトレ)に包括的に取り組むことにより、注意力・集中力の向上、学習意欲の向上、円滑なコミュニケーションの実現、児童生徒同士のトラブル減少などを明らかにしていきます。

最終的には、不登校における学校に係る主な要因である学業の不振や友人関係をめぐる問題などを改善することが、不登校児童生徒の減少につながることを明らかにしたいと考えています。

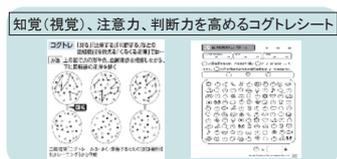


コグトレ(Cognitive OO Training)

●コグトレとは、学習面、社会面、身体面の三方向から児童生徒を包括的に支援するプログラムのこと。



期待される活用シーン



<学習面>A中学校特別支援学級(5名)での取組
・正答数・正答率の向上
・コグトレによる知覚、注意力、判断力の向上



<効果例>生徒Bは、展開図の理解や立体図の表面積計算ができるようになり、数学の問題を解くことが楽しく発言している。

